

「段階的な検討のプロセスの手引」を踏まえた校内委員会等での検討のまとめ

(記入例) 事例3 ○○中1年3組 氏名○○○○ 記入者(担任)△△△△

【児童生徒の状態等で最も気になること】

- ・ 学習の困難さ 中1のテストの正答率(1~2割), 小4以上の漢字の読み書きができない
- ・ 同学年との会話がかみ合わない

【行った項目にチェックを入れ, 実施した主な取組を記入してください。】

【実態把握】

- 指導要録等
- 前担任, 教科担当者等からの情報
- 学習面, 情緒面等
- NRT や CRT
- 新学年別知能検査(教研式サポート)の ISS
- 個別式の知能発達検査(WISC等)
- LD・ADHD 等気付きのためのチェックリスト

ステップ1

- 通常の学級において, “分かりやすい授業”の工夫を行っている。

【行った工夫とその結果】

- 言葉だけでなく, イラストや動画での説明を加えた。→ 学習内容が定着しなかった。

ステップ2

- 通常の学級において, 個別の配慮(合理的配慮を含む)を提供している。
- 通常の学級において, 個別の指導計画を作成している。
- 通常の学級において, 特別支援教育支援員の活用を検討した。

【実施した内容とその結果】

- 本人, 保護者の同意を得て, 宿題の量を減らした。→ 授業が分からないのできつい。学校に行きたくない等の相談があった。

ステップ3

- 通常の学級において, 特別支援学校の巡回相談を活用するなど, 外部専門家と連携した取組を行った。

【実施した内容とその結果】

- 校内委員会で医療機関への相談を勧め, 本人, 保護者も了解した。→ 診察の結果, 個別の知能検査の結果から IQ65であり, 当該学年の授業内容を十分に理解することは難しいと推測されるとの報告があった。

ステップ4

- 通級による指導の利用について検討した(自立活動の必要性等)。

【検討した内容】

- 本生徒の状態は, 第756通知の「通級による指導」の対象ではないと判断した。

ステップ5

- 特別支援学級の入級について検討した(自立活動の必要性等)。

【検討した内容】

- 本生徒の状態を第756通知の「特別支援学級」における「知的障害者」に該当すると考え, 本生徒の更なる成長のためには, 下学年の教科の内容に丁寧に取り組んだり, 自立活動でコミュニケーションの指導をしたりすることが, 必要であると判断した。

- 保護者に県教委作成資料「全ての子供が笑顔で学校生活を送るために」を配付・説明した。

